

全科協ニュース

URL <http://jcsml.kahaku.go.jp/JCSM/>

全国科学博物館協議会 東京都台東区上野公園 国立科学博物館 ☎110-8718 Tel.5814-9857・9858 Fax.5814-9898 平成11年9月1日発行(通巻第168号)

博物館独自の商品開発

博物館3館の実例

琵琶湖博物館のオリジナルグッズ

滋賀県立琵琶湖博物館 芦谷 美奈子

琵琶湖は、世界の古代湖として長い歴史をもつ湖です。その湖辺にある琵琶湖博物館では、「湖と人間」をテーマとして、湖の環境の変化と人の暮らしについて幅広い展示を行っています。さて、その琵琶湖博物館では、開館当初からミュージアム・ショップを「持ち帰り博物館」として、展示室と同様に重要な場所であると考えてきました。そして、ショップで販売するグッズは、単なるみやげ物ではなく、博物館のメッセージを伝える手段の一つとしたいと思ったのです。実際に運営にあたる「㈱おいでや」と共に販売するグッズの選定をはじめましたが、なかなか大変な作業でした。

まず、当館では水族展示も含めて淡水を扱いますが、一般に入手可能な淡水魚または湖そのもののグッズは、ほとんどありませんでした。たとえば、海の魚の水族館のショップでは、イルカやエイ、ペンギンなど、よく知られている生き物たちがぬいぐるみとなってみんなを迎えます。また、アクセサリーなども豊富に出回っています。しかし、同じ水族でもあくまでも淡水にこだわっている当館では、海の生物グッズを売るわけにはいきません。もちろん、「琵琶湖」そのものへのこだわりも相当なものです。それならば、ということで、ぬいぐるみをはじめ、様々なグッズを独自に作るようになりました。

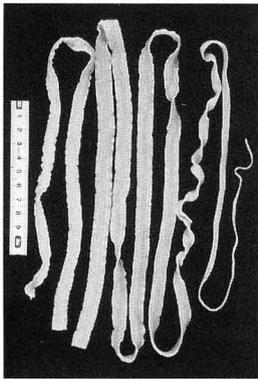
オリジナルのぬいぐるみは、琵琶湖の固有種の大親分でもある「ビワコオオナマズ」と、A展示室に高さ4m近くもある骨格標本が展示されている「コウガゾウ」です。ぬいぐるみはそれぞれ大中小の3サイズありますが、特に成長すると体長1m以上にもなるオオナマズは、小さなサイ

ズにするとオタマジャクシみたい(?)でかわいいと評判です。大きなサイズのナマズは、形も大変リアルで、3万円という値段にも関わらず、開館当初の来館者の中には、わざわざ九州から買いにこられた方もあったほどです。「コウガゾウ」も、現生の生物でないため少し地味ですが、かくれた目玉グッズです。世界中でも、琵琶湖博物館でしか買えないぬいぐるみです。

オリジナル・グッズは、ぬいぐるみだけではありません。結構実用的なのが、開館当初からあるトート・バッグです。これは、琵琶湖博物館のシンボルマークが入った大きなバケツ型のバッグで、マーク、持ち手と底の部分が通称「滋賀ブルー(滋賀県のシンボルマークに使われている青)」と呼ばれる鮮やかなスカイ・ブルーで、夏らしいイメージのグッズです。かなり丈夫で、重い荷物を入れても大丈夫。物がたくさん入って、しかも持ち運びが楽なので、スタッフにも愛用者が何人かいます。



大きなサイズのビワコオオナマズ



財団法人目黒寄生虫館

立体サナダ虫Tシャツ

左はデザインの元となった

サナダムシの標本写真

150cm、フリーサイズ、LLがある。

2900円 製作は(株)小さなロマンス

最近、Tシャツ類もなかなか品揃えが増えてきました。年に1回開催される企画展のオリジナルTシャツは、今や定番となってきました。また、細密画のイラストレーター、今森洋輔さんの作品を使った、琵琶湖の在来種の魚や様々な鳥たちを描いた図鑑のようなTシャツも、当館でしか購入できないグッズです。実用的なグッズは、さらにたくさんあり、「ザリガニ」と「オオナマズ」を中心に展開されている文具などのシリーズがお手頃です。特に、トップにザリガニやオオナマズが付いたボールペンは、ボリューム感の割に軽くて使いやすさ満点です。

紹介したオリジナルグッズはほんの一部で、今でも種類はどんどん増えています。基本的なグッズ、実用的な物やかわいい物は、かなりの数揃ってきたと思いますが、これからは博物館が伝えようとしているメッセージを、どのようにグッズに反映させていくかがカギです。たとえば、「フィールドへの誘い」をショップでも感じてもらえるか、「人と自然の関わり」を表す商品はなにかなど、課題はたくさんあると考えています。大人の鑑賞眼にも十分に耐えられるような、ギフトとして喜ばれるような、それでいて博物館の考え方が伝わるような、そういったオリジナルグッズが、今後の目標となるでしょう。

平成4年度より上野の国立科学博物館で開催している『夏休みサイエンススクエア』で実施している「飛ぶ種のふしぎ」、また、毎週日曜日午後1時30分より港区の附属自然教育園で実施している展示解説「飛ぶ種のふしぎ」は、大変好評を博しています。

この行事は、いろいろな植物の種の散り方を観察した後、

とくに翼を持った種の模型を作り、飛ぶしくみやふしぎについて学習するものです。

ここで作った模型を、家でもう一回作ってみたい、友達のおみやげにしたい、自然観察会でやってみたいなど、模型の材料がほしいという要望がたくさんありました。

そこで、平成9年度より模型の材料をセットにして販売することにしました。

身近な植物のマツ・ニワウルシ・アオギリ、熱帯アジア産の植物のラワン(紙ラワンとロケットラワンの2種類)・アルソミトラの模型の材料5種類6セット、その他、それぞれの植物の解説や模型の作り方などが書かれた説明書、さらにはラワン・アルソミトラの種の実物大写真などが入ったセットになっています。1セットの価格は、250円です。

また、ロケットラワンとアルソミトラの模型は、ステンペーパーや発泡スチロールを加工するにはやや高度な技術が必要で、一般の人には作りにくいため、50人分をパックにし、学校等の団体用に販売しています。1パックの価

調査・企画・デザイン・設計・製作・施工・
監理・運営およびコンサルティング・プロデュース

より良い「社会交流空間づくり」にむけて…。

 株式会社丹青社

〒110-0005 東京都台東区上野5-2-2 TEL 03-3836-7221(代表)

札幌・仙台・新潟・名古屋・大阪・鳥取・福岡

URL <http://www.tanseisha.co.jp>

格は、それぞれ1500円です。

現在、日本各地の学校教育・社会教育関係者からの注文が殺到している状況です。模型の材料の製作・袋づめ等は、すべて手作りのため、注文される場合には、日程に余裕をもってお申し込みください。

ギザギザに切られた所をこするとクルクルとまわる不思議な玩具は、昔から“ガリガリトンボ”や“スリコギトンボ”の名で親しまれてきました。これらは、胴・羽とも竹でできていて、羽の数も2枚です。

そこで、羽を4枚にし、目玉をつけ、いっそうトンボらしく改良したのが、この『クルクルトンボ』です。子供たちでも作りやすいよう胴体は木、羽は下敷きを使っています。

自然教育園では、このクルクルトンボ作りを昨年より教育活動の一つのプログラムに入れましたが、好評でしたので今年から商品を作り販売しています。現在のところ、自然教育園に生息するトンボのうち、「キイトンボ」(400円)、「ショウジョウトンボ」(450円)、「オニヤンマ」(500円)の3種類です。

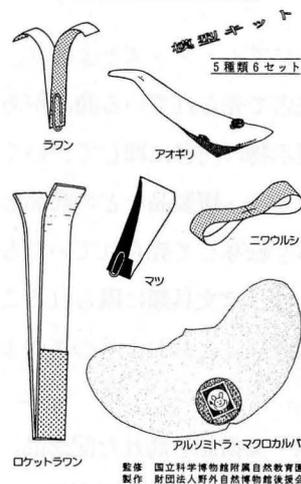
今後、自分たちでも作れるよう材料だけを入れたキットも販売する予定です。

「翼を持った種」と「クルクルトンボ」

国立科学博物館附属自然教育園 矢野 亮

種の模型キット

翼を持った種



製作 国立科学博物館附属自然教育園
製作 財団法人野外自然博物館後援会

なお、これらの商品のお問合せは、財団法人野外自然博物館後援会 〒108-0071 東京都港区白金台5-21-5
TEL03-3441-7176 FAX03-3441-7012までお願い致します。

感じる科学

動刻

▲恐竜ロボット
ティラノサウルス

▲人体型ロボット
ユスモ博士(富崎科学技術館)

文化施設・商業施設・ディスプレイ企画・設計・施工

kokoro 株式会社ココロ

〒205-0023 東京都羽村市神明台4丁目9番1号
TEL0425(30)3911(代)・3939(営業)
FAX0425(30)3900・3927(営業)

ミュージアム・グッズ

—東京国立博物館における商品開発の一例—

ネット情報システムズ代表 村松 茂

はじめに

いまはミュージアム・グッズとよばれ、それぞれの博物館・美術館の売店で売られている商品がある。そのなかには、古くから展示物の内容に即して、いくつかのアイテム（絵はがき・ポスター・複製品などの商品という意味）に画像の一部や全体を転写して売られていたものがあるが、それらのアイテムはほぼ文具類に限られることが多く、また販売意図や購入意図は、おおよそつぎのようなものであっただろう。

○その博物館・美術館を訪れた記念品。

○記憶にとどめたい展示物の備忘録。

それは、特別な機会を記念するために販売・購入することができる商品であって、極論すれば、日常普段に使用したり、装飾品として室内に掲げたりする一般商品（選択するにたる多様性が準備されている）とは異なるものであったといえよう。

ここでいう、ミュージアム・グッズとは、以上の特別な販売・購入機会のみを想定しないで、一般商品の域にまでそのアイテムを拡大して、一般商品としての競争力を備えた水準にまで質・量・販売力を高めようとするものをさすこととする。

こうした動きは、1970年代のアメリカ、ことに当時沈滞していたアメリカ有数の美術館であるメトロポリタン美術館ではじまったといわれる。1977年までの約10年間若くして同美術館長をつとめたトマス・ホーヴィングは「美術館の運営も GM（ゼネラルモーターズ）の経営も一緒だ（同著『ミイラにダンスを踊らせて』=白水社）」として、自由な発想で大胆な改革をくりかえした。そのなかにミュージアム・ショップの充実・拡大がふくまれており、その成功は同美術館の運営資金の調達や集客力におおきく貢献し、今日の活気をとりにどした一因という。

ミュージアム・ショップの主力商品はいうまでもなく、ミュージアム・グッズである。「ライバルはティファニー」というほど、メトロポリタン美術館のグッズ類は人気があり、商品水準も高く、いまは世界中の代表的な美術館の副

業として定着しているようにみえるミュージアム・グッズ商法のさきがけとして名高い。

もちろん、わが国では、アメリカの有名な博物館・美術館の多くとは運営形態も違うところが大半であり、トマス・ホーヴィングのような発想や改革が無条件でおこなわれることは予想しがたいが、商品をつくって販売する以上、緻密な計画と計算のうえにたたなければ、とうぜんうまくゆかない。

東京国立博物館では、1990年4月、それまで本館一階ロビーにあったふたつの売店を整理統合して、本館地下に概そ600平方メートルの売場面積をもつミュージアム・ショップを開設した。

このショップは、日本の考古学・美術・工芸などの分野の書籍を集めて販売する書店機能、収蔵品を中心にした複製絵画や絵はがきなどの従来からなじみのある商品、それとときにミュージアム・グッズと呼んだ商品群を販売する部門の三つからなりたっている。

それはわが国における、本格的なミュージアム・ショップのはじめであり、ひろく報道されて話題になった。すでに欧米の博物館・美術館でのミュージアム・ショップの充実ぶりが話題になっており、彼我の違いを嘆く風潮が目立っていただけに、大半は好意的に受け取られた。そのとき開催されていた展示会は「日本国宝展」で、記録的な入館者を集めたことも幸いして、好スタートをきることができた。

筆者は当時、このショップで販売するためのミュージアム・グッズの一部商品の開発・制作を委嘱され、それに従事した。その経験の一端をつぎにしるす。

ミュージアム・グッズの開発

東京国立博物館のミュージアム・ショップの運営主体から、ミュージアム・グッズの開発に助力してくれないかという依頼を受けたとき、それより、10年前の1980年の夏、アメリカ東部を旅行して、メトロポリタン美術館、ボストン美術館などのミュージアム・ショップを訪れたことをおもいおこした。

おりあしく、メトロポリタン美術館は大規模な改修工事が行われていて、全体をみることはできなかったが、ボストン美術館の広くて明るく、清潔なショップの印象は忘れられないものだったし、ハーヴァード大学の附属美術館であるフォッグ美術館に隣接するショップは、ミュージアム・グッズばかりではなく、同大学のグッズなども売っていて、

その商魂のたくましさと確実に購買意欲をそそる的確なアイテム選択とデザインの力量に驚いたものだった。

わたしたちのミュージアム・グッズも、成功したメトロポリタン美術館のミュージアム・グッズの当時の現状を参考にすることにした。

まず、東京国立博物館の収蔵品のなかからとりあげるべき作品と、その画像にとって相性がよいとおもわれるアイテムを組み合わせるところからはじめ、そのうえでロット生産の可否や多寡を決定するという方法である。

ところが、この方法には無理があった。

それは、画像とアイテム（使用される素材も含めて）との mismatch である。メトロポリタン美術館の場合、エジプト、ギリシア、ローマ、ルネサンス美術などの収蔵品を欧風のアイテムにそのまま転写、あるいはデザイン化してもなんら違和感はない。

しかし、東京国立博物館の収蔵品の主力は日本の考古遺物、絵画や彫刻、工芸などいわゆるわが国の伝統美術と称されるものが大半を占めているし、それこそがミュージアム・グッズに使用すべき画像なりプロポーションである。ところが、アイテムの種類は、わたしたちが日常生活で使用するものを予定している。それはほとんどが洋式のものであって、わが国の伝統美術を適用するにはどうにもおさまりが悪い印象を受けてしまうのだ。

もちろん、日本の伝統的なアイテムもある。たとえば、風呂敷や日本手ぬぐい、団扇、扇子、湯飲みなどが、これにふさわしい日本美術の画像とは何だろう。湯飲みに浮世絵が転写してあったらどうだろうか。それは容易に生産できるが、品質の高低はあっても全国各地の名所旧跡のどこにでも売っているものになりかねない。それをミュージアム・グッズと呼べるだろうか。かつて谷崎潤一郎が『陰翳礼賛』のなかで述べた東西の事物の違いがそこにある。昭和のはじめに谷崎が哀惜をもって述べた日本の伝統的な生活様式はさらに影をひそめ、生活用品の欧化への傾斜がますます激しくなっている。

そこで、いくつかの原則をつくることにした。

①博物館の収蔵品はすべて、外から持ち運ばれたもので、本来そこにあったものではない。

②その目的は公衆にたいする展示、よりよい保存、研究のためで、本来の使用目的とは遠く離れているのだから、ミュージアム・グッズも展示品をよりよく理解してもら

一助としての位置をはっきりさせるために、アイテムとの mismatch を恐れず、むしろアイテムに埋没してしまうような使用方法を避ける。

③所蔵品のなかで、画像そのものを転写して使用するよりも、デザイン化して使用するほうが効果的なものは積極的にデザイン化する。

など、緊急避難的な要素をもつ原則である。

その上で、手工芸品風な作成方法よりも工場生産によるロット生産 (lot production) を確保して、価格と品質の平均化をはかることにした。こうして東京国立博物館のミュージアム・グッズのいくつかが誕生したが、いまなお、膨大な収蔵品のなかから取り上げるべき作品、それをどんなアイテムにどのように応用すべきかなど、課題は多い。

そこには、さきあげた東西の違いがつねによこたわっていて、大きさにいえば、それはひとりミュージアム・グッズのみならず、わたしたちの社会の伝統と現代のありようにつねにかかわってくる問題でもある。

現在、わたしたちは世界中の多くの博物館・美術館の作品をインターネットを通じてみることのできる社会に暮らしている。東京国立博物館でも収蔵作品の画像のデータベース化が進み、諸作品の検索、比較が容易にできるようになっている。これらの情報をつねに手もとにあつめて、どのようなアイテムに適用できるかどうか、コンピューティング技術を駆使してシュミレートすることが可能になっている。

商品化というリスクを伴う行為のなかで、商品化した場合の効果をあらかじめシュミレートできる技術を確保して、さきの原則から自由になり、より高品位なミュージアム・グッズがたくさん生まれることを願っている。



共有と独立

—ミュージアムショップの現場から—

ミュージアムショップ「オンサンデーズ」 商品開発室長 **草野 象**
くさのさきと

美術館との位置関係

一般にはミュージアムショップの製品開発というと 博物館や美術館の収蔵品に付随したものをベースに、展覧会ごとに関連商品を考えていくということになるだろう。しかし企画によっては予想もしない分野の勉強を一から始めなければならず、「関連する商品」そのものが成立しがたいことも多く、仮に期間中は好評を博したとしても企画の終了後の商品の扱いにはときに手を焼くことにもなる。

開発の難しさのひとつに、展覧会の最中と終了後のギャップをミュージアム本体ではなく、ひたすらミュージアムショップが引き受けなければならないという問題がある。もちろん企画の段階からショップの意見が反映されるならば、現実的に無理のない開発が可能になるだろう。そのためにはミュージアムショップが単体の店舗としての独立性を保持していなければならない。

「オン・サンデーズ」はワタリウム美術館のミュージアムショップとして1990年に新装したが、それ以前に約十年間、アートショップとして店舗単体で営業をしていた。店舗としての展望を持続させているため、さまざまなギャップを消化させていく余地があり、美術館とのバランスをとることは比較的容易である。もちろん独立性というのは、美術館に寄らずにショップだけを利用するという動線の問題だけではなく、独自の展開をしつつ美術館の企画に重なる部分を持つという意味である。



ワタリウム美術館の
ミュージアムショップ
「オン・サンデーズ」店内

ミュージアムショップの魅力

ミュージアムショップの最大の魅力はなんといってもユニークな商品群である。カードや関連する書籍だけでなく、食器やインテリア用品、文房具、ときには衣料品、玩具、音楽や映像素材までもがひとつの店舗の中にならべられる。

そしてどんなに豊富な商品グループがあろうとも、すべての商品とミュージアム本体はある統一されたイメージで結ばれ、全体として独特の〈雰囲気〉を共有する。そうでなければ多くの商品をそろえたとしてもイメージが分散して雑然とした印象になり、その商品が並べられる必然性に疑問符がついてしまう。それでは魅力ということから遠く離れるばかりか、実際に商品も売れていかない。

ショップでなにかを買う。では何の目的で買うのかといえば、訪れた記念であったり、見聞きしたことの証明であったり、人に見せたい、贈りたい、知らせたい、など、商品が並べられている背景に欲求が向いている。つまり〈雰囲気〉こそが魅力の核心なのであって、それが個々の商品を引き立たせる構造になっている。ミュージアムショップでの買い物というのは、他の百貨店や小売店における一般的な購買とは異なる場所で成立している。

商品を開発するときにはそのことに充分気を払わなければならない。展示に直結するものであれば展示作品の成立過程や文化的意義に注意するのは当然であるが、正しいから、あるいは作品が評価されているから、というだけの理由では魅力にあふれる商品を展開していくのはむずかしい。イメージを共有し、一層盛り上げるような一種の高揚感までを期待しなければならない。

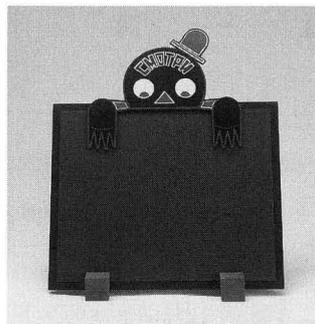
「ロトチェンコ展」の実例

ロシア構成主義の作家アレクサンドル・ロトチェンコの業績を中心にした『ロトチェンコの実験室』展がワタリウム美術館で1995年に開催された。ロシア構成主義独特の赤と緑の補色使い、写真をはめこみ文字を強調したデザインの数々は商品開発に適したものだ。ここで企画され、実際に商品化された商品は以下の通りである。

- | | |
|-------------|----------|
| ○ポストカード 10点 | ○しおり 8点 |
| ○マグカップ 1点 | ○ノート 3点 |
| ○エプロン 1点 | ○バッグ 2点 |
| ○Tシャツ 4点 | ○卓上黒板 1点 |

この他に外部出版社による出版物が二点(画文集と絵本)あり、それが展覧会図録を兼ねた。オン・サンデーズは幸いなことに大面積のポストカード専用什器を有しているため、ポストカードだけは当初から継続販売を考慮して大部数を印刷した。他のアイテムはすべて会期中に完売した。

この制作では、グラフィック素材としては申し分ないものの、そのまま「複製」しただけでは古くさく、重々しい



「黒板」
 ロトチェンコ展に際して制作されたノート「キーノ」
 印象になってしまうことに注意して、製品としてはできるだけ軽快なものになるように努めた。

たとえば「ノート」については表紙デザインが製品としての生命線であるが、構成主義の強いデザインをただ表紙に貼りつけたのではいかにも野暮ったく、ただの派手なノートで終わってしまう。そこで表紙素材を透明なビニールにして、そこに濃淡の激しい図柄を載せた。それによってインパクトの強さを損ねることなく、融通が利く柔軟さを持つ商品として送り出すことができた。

「黒板」については、構成主義の持つ硬質で激しい印象から離れて、ユニークでユーモアに満ちたやわらかい視線を現代風にアレンジして表現できないだろうかという協議のなかで生まれた商品である。商品としてはかなり風変わりな部類にはいるだろうが、立体的であり、ロトチェンコの姿勢に沿っており、なにより説明不要の明快なものである。この「黒板」があることで他の商品が引き立つようなところがあった。平面への印刷というのは作業として考えやすく、進行もしやすいために商品がかたよりがちである。しかしこの「黒板」のように形状としても発案としても思いきったものを一点でも含めておくと、商品群全体のイメージを強固にして、成立背景をしっかりと主張してくれる。

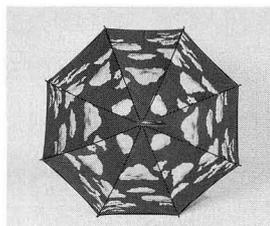
『ロトチェンコの実験室』展は盛況であり、ショップの商品展開もスムーズであり、全体として成功したといえるだろう。「オン・サンデーズ」というショップのイメージと商品の開発がうまく合致したのだと思っている。構成主義、ロトチェンコ、そういった『知識』の有無にかかわらず、来店したすべての人に商品が受け入れられるかどうか、この開発の眼目であった。

「MOMA」の奮戦

「オン・サンデーズ」はオリジナル開発の商品だけを展開しているショップではなく、海外のメーカーや出版社から商品を選んで輸入販売している。そのなかでとりわけ人気

が高く、つきあひも長いのがニューヨーク近代美術館・「MOMA」である。

「MOMA」自身が大ヒットと認めている「スカイ・アンブレラ」(傘の内側に雲と空が描かれたもの。デザインは故ティボール・カルマン)はいまだに人気不衰、世界的にポピュラーな商品である。「MOMA」の商品開発や販売戦略については世界中の関係者が参考にしているだろうが、この商品についてはまったく「商品自体」のちからが成功をおさめたと言っていい。



MOMA(ニューヨーク近代美術館)製の傘
 「スカイ・アンブレラ」

もともとミュージアムグッズというのはキッチュな存在で、平均的でないところに本義がある。つまり「大ヒット」とは矛盾するはずのものなのである。風変わりで一般的でないものに、なんとか知性と品格を与えようとするのがミュージアムグッズ開発の姿であるならば、この「スカイ・アンブレラ」は一般商品とのぎりぎりの境界線で勝負をした心意気の勝利である。学ぶべきは図解された「MOMA」の戦略ではなく、開発者の情熱のようなものではないだろうか。

この「MOMA」も、ミュージアムショップを開店させて今年で60年になるという。この間のつねに先進的で柔軟な発想で展開された商品開発はまばゆいばかりのものである。本体である近代美術館には他の都市、他の国のどの美術館ともちがう独特の親しみやすさと楽しさが漂うが、そうしたイメージを獲得するまでの下地には早くからショップの意義と重要性に気付き、「売店」ではない独立したショップに、美術館と利用者との架け橋という役割を担わせた大きな意思がある。

残念ながら日本では、美術館建設にあたっては凶面の段階ではショップのスペースすら確保されないような事態が依然として続いている。「ものを売る」スペースを文化施設に組み入れることに対する抵抗感が根底にあるのだろうが、偏狭というに尽きる。人員を配置するだけの「商品の置き場」ではなく、意思を持って動いていくようなショップをめざさないかぎり、商品開発もきびしいものになるだろう。一方ではショップの拡充は利用者増への最短の道であるとも思うのだが。

海 外 ニ ュ ー ス

安井亮事務所

米ボストン科学博物館とコンピュータ博物館、吸収合併に向けて覚書を交換

1999年4月に、ボストン科学博物館はコンピュータ博物館との間で、将来ボストン科学博物館にコンピュータ博物館を吸収合併する基本合意に達し、覚書を交換した。コンピュータ博物館は、1979年の開館以来、最先端のコンピュータ技術を紹介していることで世界的に知られているにもかかわらず、ここ数年の間、年間入館者(約14万人)が伸び悩み、経営不振に陥っている。一方190万人の年間入館者を誇るボストン科学博物館(1830年開館)では、同じボストン市内にあるコンピュータ博物館との競合回避と、ともに市内の青少年育成に貢献している良心的な配慮から、コンピュータ関連の展示やプログラムが少なかった。今回の吸収合併劇で、長年コンピュータ博物館で蓄積されたコンピュータ技術関連の展示やプログラムのノウハウを保存継承するかたちで、両者の間に話し合いが継続されることになった。最終的な吸収合併の期日や職員の吸収とリストラを含む運営の細部までのプランは具体化されていないが、当面の間は、コンピュータ博物館にある『バーチャル・フィッシュタンク』や『コンピュータ・クラブハウス』等の人気が高い常設展示と、常に子どもにとって相応しいコンピュータ・ソフトを紹介してきた『ザ・ベスト・ソフトウェア・フォア・キッズ・ギャラリー』を、ボストン科学博物館の中で、どこに移設するかを検討が始められた。好景気が進む米国の博物館界では、リストラを含むこの吸収合併劇に関心が集中している。

米ピッツバーグ子ども博物館が、改装オープン

展示の大幅な改装が進められていたピッツバーグ子ども博物館が、1998年12月末に、再オープンした。新しく登場した常設展示の目玉は、『グレート・ハイツ』(Great Heights)だ。ここでは、子どもたちは滑車を使って手でエレベータの昇降を行ったり、重力が学べる垂直方向のメイズや自由な想像力に満ちた飛行物体を作成できる工房が設けられている。また人気が高かった大きなジャングルジムも新たに改装されて設けられた。この大幅な改装工事の中で、同館が、そのユニークなプログラムで全米に誇ってきた子ども劇場も大幅に改装された。(参照：同館の演劇活動については、トータルメディア開発研究所が1998年8月に出版し

た『ミュージアム・ディレクトリー第2巻：世界の子どもの博物館』の中で、同館を紹介した頁に詳しい)

米ヒューストン自然科学博物館で、プラネタリウムを改装オープン

1998年12月にヒューストン自然科学博物館のプラネタリウムが大々的な改装を終えて、再オープンした。今までの同プラネタリウムは単にドーム内の壁面に天空の星座を投影していたに過ぎなかったが、今回の改装では天空の星座の撮影だけでなく、最新のマルチメディア技術を使った宇宙空間内でのバーチャル移動も体験できる。新しく設けられたプラネタリウムは、アメリカ航空宇宙局(NASA)が行っている教育普及プロジェクト『Museums Teaching Planet Earth』の一部であり、総工費の130万ドルのうち、26万ドルがNASAから提供されている。なおこのプラネタリウムは、子どもを含む一般の利用者にも供しているが、宇宙飛行士の実際の訓練にも使われており、訓練期間中の宇宙飛行士はシャトル内から見える宇宙空間の星座を確認して、宇宙空間内での飛行を擬似体験できるようになっている。

米アニストン自然史博物館で、身近な水環境の生態に関する常設展をオープン

このほど身近な池や沼に住む生物の生態を紹介する体験型の常設展示『ビヨンド・マイ・ポンド』(Beyond My Pond)が、アニストン自然史博物館(アラバマ州アニストン)にある子ども・ディスカバリールームに設けられた。この展示では、水中に住むさまざまな昆虫や無脊椎動物が観察できる他に、水の汚染がどのように彼らの生態に影響するかがわかるようになっている。またこの展示と関連して、企画展『リバー・ウォーク』(River Walk)が開催(1999年6月まで)され、写真等をつかって、アラバマ州の河川の紹介を行っている。

米ニューヨーク科学館で、タイタン型ロケットの屋外常設展を準備中

ニューヨーク科学館で現在進められている大規模な拡張計画の一環として、このほどアメリカの宇宙開発の初期に使われたタイタン型ロケットが、有人宇宙船『ジェミニ』とともに屋外展示されることになった。アトラス型ロケットも併せて屋外展示される。公開は拡張計画の建設が終わ

る2001年夏の子定だ。

米フランクリン科学博物館で、小学校低学年を対象とした常設展を準備中

このほど全米科学基金(National Science Foundation)から総額88万ドルの助成を受けて、フランクリン科学博物館では、年齢が小学校就学前の幼児から小学4年生およびその親を対象とした新しい常設展示コーナー『キッド・サイエンス』(Kid Science)を設けることになった。新しい施設の完成は1999年末だ。同館では、これ以外に、全米科学基金から、地域の科学教師への新しい支援プログラムに、総額130万ドルの助成を受けている。

仏トゥールーズ宇宙科学館で、宇宙と海に関する企画展を開催中

スペインとの国境に近いトゥールーズは、フランスの宇宙開発の中心であり、同国の宇宙開発の普及のために1997年6月に、新しい宇宙科学館『シティ・デ・ラ・エスペース』(City de l'Espace)が開館された。このほど海洋開発や航海、海底の地下資源の探査と開発に、宇宙開発のために開発された技術がどのように使われているかを紹介した企画展が、1999年3月から開催されている。同展は1999年9月まで同館で開催後、欧州各地で巡回される計画だ。なお同館の屋外展示場では、ロシア製宇宙科学ステーション『ミール』が1998年7月に設けられ、観覧者は、もともと地上での訓練用に開発されたこの本物の訓練施設の中に入って、施設内でロシア人宇宙飛行士による生活と仕事がどのように行われていたかを知ることができるようになっている。

米メリーランド科学館で、太線系外の宇宙を紹介した企画展を開催中

1990年にメリーランド科学館(メリーランド州ボルチモア市)は、アメリカ航空宇宙局(NASA)が開発したハブル宇宙望遠鏡(Hubble Space Telescope)の常設展示を初めてつくって以来、国立宇宙望遠鏡研究所とともに、ハブルがとらえた宇宙のイメージを普及するのに手伝ってきた。このほど、同館では、国立宇宙望遠鏡研究所とアメリカ航空宇宙局の全面的な協力を得て、1999年4月からハブル宇宙望遠鏡がとらえた最新の映像を紹介した企画展『アウトター・スペース・プレース』(Outer Space Place)を開催している。なお同館は、ビショップ博物館(ハワイ)とともに、アメリカ航空宇宙局が、博物館を拠点に進めて

いる国際宇宙ステーションに関する啓蒙普及活動『スター・ステーション・ワン』(Star Station One)のプロジェクトにも参加している。

米ダラス科学館で、少女を対象としたキャリア開発講座を開講

周知の通り、多くのアメリカの科学館では科学知識の啓蒙が活動の中心になっているが、ダラス科学館のように、青少年、それも少女を対象に科学あるいは技術の分野で将来活躍するためのキャリア開発を内容とした事業を行っているところは少ない。『科学での成功は、何もジェンダーと関係ない』。これは、現在ダラス科学館で、少女を対象に行っている科学プログラム『TSP・フォア・ウィメン』(The Science Place for Women)の基本的な考え方になっている。同プログラムは、科学知識の習得をめざしたプログラムではなく、中学生から高校生までの少女を対象に、科学と数学およびテクノロジーの分野で将来自分がどのように活動できるかというところを考えた、いわばキャリア開発の講座だ。参加者たちは、ダラス科学館を拠点に、科学・技術の現場で働く女性について、どのようにして彼女等がそれぞれの活躍分野に進めたのかについて学ぶ。インターネット、現場の先輩のレクチャー、あるいは企業・大学訪問を含んだ豊富な内容になっており、ダラス市内の学校に通う多くの少女が、学校の帰りにダラス科学館に立ち寄り、この講座を受けている。『TSP・フォア・ウィメン』は、ダラス科学館が中心になって、ダラス女性基金とダラス教育委員会からの協力をを受けて、1999年から始めたユニークなキャリア開発事業だ。参加料は無料。

科学博物館等のホームページ

Cite de l'Espace Toulouse, France

<http://www.cite-espace>

Exploradome Paris, France

<http://www.exploradome.com>

Montreal Interactive Science Centre

Montreal, Canada <http://www.svpm.ca>

Musee Cantonal de Geologie Lausanne, Switzerland

<http://www.sst.unil.ch/musee/>

Naturama Aaran, Switzerland

<http://www.natumus.ag.ch>

*安井亮事務所: Fax.042-736-5916

E-mail:QFH03327@nifty.ne.jp

9月10月の特別展

- 岩手県立博物館**
企画展「本の装い」 9月28日～11月7日
- 秋田大学工学資源学部附属鉱業博物館**
後期企画展「世界の橋」 10月9日～11月20日
- ミュージアムパーク茨城県自然博物館**
企画展「バラ・のいばら・茨城
—彩りと香りの世界—」 9月23日～11月28日
- 群馬県立自然史博物館**
企画展「ミクロの世界」 10月9日～11月28日
- 浦和市青少年宇宙科学館**
第9回植物画展 10月14日～11月6日
- 狭山市立博物館**
秋期企画展「狂言 その装束」 10月9日～11月23日
- 人間市博物館**
ヴィクトリア&アルバート美術館所蔵
「英国水彩画100選」展 10月30日～12月12日
- 埼玉県立博物館**
企画展「自然のしらべ方」 7月8日～9月26日
特別展「埼玉にいたゾウ」 10月9日～12月5日
- 科学技術館**
「クロスエイジングウィーク」
～次代の選択と情報活用 9月15日～18日
- 交通博物館**
20世紀へ助走した時代—100年前の鉄道展 (仮称)
9月23日～12年1月16日
- 機械産業記念館 (TEPIA)**
暮らしのデジタルインパクト展
～変わる21世紀の日本～ 8月6日～12年3月24日
- 東京ダイヤモンドミュージアム**
特別展「ダイヤモンドを造る」 10月5日～11月28日
- 横浜こども科学館**
企画展「巨大シャボン玉を作ろう」 9月8日～10月11日
- 馬の博物館**
テーマ展「草原を渡る馬—モンゴル遊牧民の夏」
8月18日～10月3日
- 三菱みなとみらい技術館**
「ようこそ! ウォーターパークへ—水のひみつをさがってみ

- よう～」 7月27日～11月28日
- 川崎市青少年科学館**
生田緑地の植物展 8月1日～9月29日
第4次自然調査報告展 10月1日～11月30日
- 神奈川県立生命の星・地球博物館**
のぞいてみよう! 5億年前の海 10月1日～11月28日
- 真鶴サボテンランド**
生きている宝石メセン 9月25日～11月23日
- 富山市科学文化センター**
写真展「富山に生きる昆虫たち—1999—」
9月23日～10月11日
- 飯田市美術博物館**
秋の特別展「日本の博物館の父 田中芳男展」
9月12日～10月17日
- 静岡市立児童会館**
色と光! 地球のメッセージ 10月16日～11月7日
- 岐阜市科学館**
'99未来の科学の夢絵画展 9月25日～26日
- 瑞浪市化石博物館**
特別展 日本の化石シリーズ4 関東の化石
10月10日～12月5日
- 半田空の科学館**
「未来の夢絵画展」 前期9月15日～10月3日
中期10月14日～31日
指導者「ふくろうの会」天体写真展 9月15日～10月17日
- 名古屋市科学館**
企画展「かがく遊び～家でできる化学の実験～」
9月15日～26日
- トヨタ博物館**
ポスター展「自動車タイヤのポスター」
7月27日～9月26日
企画展「トヨタ博物館10年のあゆみ」展 (仮題)
10月5日～12月5日
- 大阪市立自然史博物館**
特別展「海をわたった蝶と蛾—東アジアの鱗翅類—」
8月7日～10月11日
- 倉敷市立自然史博物館**
特別陳列「アルプスの花4—植物写真展」10月1日～11月30日
特別陳列「秋の鳴く虫展」 8月29日～9月12日

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

ミュージアム・ショップ向/教育用地学標本

地学標本(化石・鉱物・岩石)
古生物関係模型(レプリカ)

大英博物館/恐竜復元模型

●常設ショールーム: 紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL.03(3354)0131(代表)



since 1974

髯東京サイエンス

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル
TEL.03(3350)6725 FAX.03(3350)6745
E-mail: science@oak.ocn.ne.jp



COLORATA.

ミュージアムグッズの企画・制作・販売・輸入
カロラータ株式会社

本社・企画室
〒111-0053 東京都台東区浅草橋4-6-8 西澤ビル
TEL.03-3865-8110 FAX.03-3864-4049

営業部・商品管理部
〒136-0072 東京都江東区大島2-13-11
TEL.03-3684-8311 FAX.03-3864-8310

広島市交通科学館

乗り物の夢と形～テレビ・映画の中の乗り物たち～
10月5日～11月23日

防府市青少年科学館

防府市小・中学校科学作品展 10月2日～11日

徳島県立博物館

伊能忠敬が描いた日本 9月10日～10月11日
発掘された日本列島'99 新発見考古速報展
10月24日～11月21日

愛媛県総合科学博物館

特別展「日本自然科学写真協会写真展」10月9日～11月7日

宮崎科学技術館

宇宙画作品展 9月23日～10月17日
宮崎県発明くふう展 10月30日～11月3日

大阪科学技術館

- [展示室名] (全館リニューアル)
- [主なコーナー(展示物)の名称]
統一テーマ「のぞいてみよう、科学技術が創る21世紀」
・技術がひらくベイエリア、緑あふれる環境づくり、深海への挑戦などのほか31テーマ
- ・フロアの各場所にサイエンス マルチメディア システムを設置—23社7団体1自治体による出展
- [更新の展示面積] 1,300㎡
- [オープンの期日] 平成11年7月7日
- [準備期間] 各テーマを約2年ごとに全面改装
- [担当業者] 各テーマによって異なる
- [総工費] 約4億円

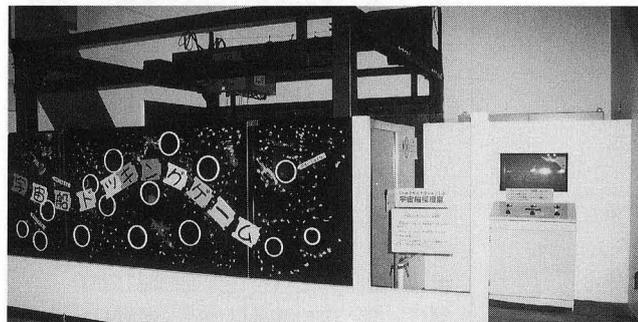
展示更新

日立シビックセンター科学館

- [展示室名] サイエンスワンダーランド
- [主なコーナー(展示物)の名称]
宇宙船ドッキングゲーム
- [更新の展示面積] 20㎡
- [オープンの期日] 平成11年3月20日
- [準備期間] 約1年間(構想、設計、実製作、施工含む)
- [担当業者] センター電機株式会社



深海への挑戦



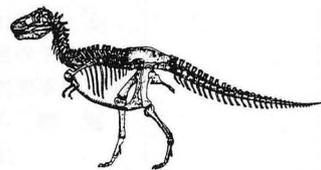
宇宙船ドッキングゲーム

**めざすのは
「小宇宙」の実現です。**

NOMURA
株式会社 乃村工藝社

本社/東京都港区芝浦4-6-4 〒108-8565 電話03-3455-1171代
ホームページ <http://www.nomurakougei.co.jp>
ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティング・
企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工

※世界の化石・
鉱物・恐竜・化石
人類・動物骨格
標本及び模型の
輸入専門業者



ティラノサウルス・REX

株式会社 **ゼネラルサイエンス**
コーポレーション

〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802
TEL 03 (3583) 0731代表 FAX 03 (3584) 6247

美術

はく製

〈各種生物〉
剥製・骨格標本・レプリカ
加工/販売/リース



有限会社 **東洋近代美術研究所**

製作所 〒272-0816 千葉県市川市本北方2-18-1 直通 ☎047-337-5678
☎047-337-5883
本社 〒272-0834 千葉県市川市国分5-3-25 FAX 047-338-1978
☎047-374-1564

平成11年度第1回総会開催

平成11年6月30日(水)から7月1日(木)の間、国立科学博物館において、平成11年度第1回全科協総会等を開催しました。第1回総会では、「平成10年度事業報告」「平成10年度収支決算報告(案)」について審議され、それぞれ承認されました。(総会出席館81館、委任状提出館150館)

加盟館園の状況

1. 館園数

平成11年6月30日現在

区 分	平成10年度 第2回総会時 (11年3月10日)	平成11年度 第1回総会時 (11年6月30日)	内 訳		増減
			入会	退会	
正 会 員	246	245	2	3	△1
購読会員	21	21	1	1	0
維持会員	32	31	1	2	△1
計	299	297	4	6	△2

2. 入退会館園

平成11年3月10日～平成11年6月29日

区 分	館 園 名	種 別	備 考
入 会	近江神宮時計博物館	正 会 員	宗教法人
	NHK スタジオパーク	正 会 員	財団法人
	蓑原 謝恵	購読会員	東京都
	(株)文化環境研究所	維持会員	株式会社
退 会	東京都児童会館	正 会 員	事業目的の変更
	岩田山自然遊園地	正 会 員	事業目的の変更
	生駒コズミックシアター	正 会 員	閉 館
	東京都生活文化局コミュニティ文化部	購読会員	
	東京システム特機(株)	維持会員	
	(株)メガ・システム開発	維持会員	

3. 正会員の設置者別内訳

設置者	館園数 (%) 平成10年度 第2回総会時	館園数 (%) 平成11年度 第1回総会時	増減
国	7 (2.9)	7 (2.9)	0
都道府県	51 (20.7)	50 (20.4)	△1
市町村	99 (40.2)	99 (40.4)	0
私	4 財団法人	30 (12.3)	1
	5 株式会社	41 (16.7)	△1
	6 個人	3 (1.2)	△1
	7 社団法人	2 (0.8)	0
8 その他	14 (5.7)	15 (6.1)	1
計	246(100.0)	245(100.0)	△1

平成10年度事業報告

1. 管理運営

事 項	内 容
第1回理事会	平成10年6月24日(水)国立科学博物館 出席館 17館 議 事 次の議事について審議し、承認された。 1 平成9年度事業報告について 2 平成9年度収支決算報告について 3 その他
第1回総会	平成10年6月24日(水)国立科学博物館 出席館 80館(委任状提出館107館) 議 事 次の議事について審議し、承認された。 1 平成9年度事業報告について 2 平成9年度収支決算報告について 3 その他 記念講演 講演者 海部宣男国立天文台ハ ワイ観測所長 演 題 「すばるの新しい科学を」 施設見学 期 日 平成10年6月25日(木) 施 設 通信総合博物館 (千代田区大手町)
第2回理事会	平成11年3月10日(水)滋賀県立琵琶湖博 物館(滋賀県草津市) 出席館 14館(委任状提出館2館) 議 事 次の議事について審議し、承認 された。 1 平成11年度事業計画(案)について 2 平成11年度収支予算(案)について 3 平成10年度予算の補正(案)について 4 その他
第2回総会	平成11年3月10日(水)滋賀県立琵琶湖博 物館 出席館 79館(委任状提出館159館) 議 事 次の議事について審議し、承認 された。 1 平成11年度事業計画(案)について 2 平成11年度収支予算(案)について 3 平成10年度予算の補正(案)について 4 その他 平成11年度博物館振興施策紹介 説 明 占部浩一郎文部省社会教育課地 域学習活動推進室長 全科協 平成10年度活動報告 1 共同企画展等調査研究委員会報告 報 告 浅井孝司国立科学博物館普及部 普及課長 2 科学系博物館ホームページの総合的 な開発・高度化支援事業報告

報告	志津田嘉康国立科学博物館普及部博物館情報専門官
3 その他	・海外科学系博物館視察研修報告
報告	松本太郎 NHK 放送博物館長 (平成10年度団長)

2. 事業

(1) 研修事業

博物館職員現職研修(ミュージアム・マネジメント)	平成11年3月1日(月)～3月5日(金) 共催 国立科学博物館 後援 日本ミュージアム・マネジメント学会 協力 東京大学教育学部 参加者 39人
学芸員専門研修(アドバンスト・コース)	平成10年10月26日(月)～10月30日(金) 共催 国立科学博物館 参加者 27人
海外科学系博物館視察研修	平成11年1月11日(月)～1月24日(日) 訪問館 ヒューストン宇宙科学館、ヒューストン健康科学館、アトランタ科学技術館、フェーンバンク自然史博物館、国立航空宇宙博物館、国立自然史博物館、ロサンゼルス郡立自然史博物館 参加者 22人

(2) 連携促進事業

研究発表大会	博物館活動の充実に資するため、展示、教育普及活動、研究活動等に関する成果について、研究発表大会(第6回)を開催した。 平成11年3月10日(水)～3月12日(金) 会場 滋賀県立琵琶湖博物館 後援 文部省、滋賀県 参加者 97人 基調講演 演題 琵琶湖の魚が見た「環境」と琵琶湖博物館 講演者 滋賀県立琵琶湖博物館館長 川那部浩哉 研究発表 ①千葉県立現代産業科学館における環境学習について 千葉県立現代産業科学館学芸課長 高安礼士 ②自然教育園における教育普及活動 国立科学博物館附属自然教育園主任研究官 矢野亮 ③課題解決への総合支援センターとしての博物館の役割 兵庫県立人と自然の博物館研究員 八木剛 ④琵琶湖博物館が考える「環境」課題
--------	--

	滋賀県立琵琶湖博物館総括学芸員 布谷知夫 ⑤科学系博物館における環境教育に対する取り組みに関する海外先進施設調査報告 千葉県立現代産業科学館 研究員 西博孝 研究協議(分科会、全体会) 問題提起 国立科学博物館 教育部長 吉武弘喜 施設見学 3月12日(金)滋賀県立琵琶湖博物館
共同企画展等調査研究	委員会の開催 国立科学博物館 第1回 平成10年 7月 9日(木) 第2回 平成10年12月 8日(火) 第3回 平成11年 3月29日(月)
科学系博物館における標本資料データベースの標準化に関する調査研究	調査研究委員会の開催 国立科学博物館 第1回(全体会) 平成10年 7月29日(水) 第2回(理工) 平成10年11月12日(木) 第3回(自然史) 平成10年11月24日(火) 第4回(理工) 平成11年 2月 8日(月) 第5回(全体会) 平成11年 3月26日(金)
事業に対する共催・後援等	1 サイエンスショー、わくわく実験教室、パソコン教室、やさしい先端技術講座、工作教室 東芝科学館 2 第6回「産業技術の継承活動」全国交流大会 (財)研究産業協会 3 「全国の天体観測施設の会」第7回大会 全国の天体観測施設の会 4 「'98青少年のための科学の祭典」 (財)日本科学技術振興財団 5 「第3回サイエンス展示・実験ショー アイデアコンテスト (財)日本科学技術振興財団 6 第15回「植物画コンクール」 国立科学博物館 7 しし座流星群全国高校生同時観測会 天文教育普及研究会 8 「第6回サイエンスショーフェスティバル」 (財)日立市科学文化情報財団 9 特別企画展「日本列島に生きる未来への遺産」 国立科学博物館

(3) 広報普及事業

機関誌の発行	「全科協ニュース」を年6回編集発行した。(A4判 12頁程度 各号の発行部数1,400部 奇数月発行)
入会案内及び広報活動	新設の科学系博物館等に対し、入会の勧誘を行ったほか、全科協の活動について、広く広報を行った。また、インターネット上に立ち上げた全科協ホームページの充実を図り、加盟館相互情報流通を促進するとともに一般への全科協加盟館の提供活動を行った。

(4) 文部省委嘱事業

<p>科学系博物館 活用ネットワ ーク推進事業</p>	<p>① 巡回展の開発・運営事業 「ふしぎ大陸 南極展」実施状況 ・運営マニュアルの作成 ・巡回展の実施 平成10年 7月19日～ 8月30日 福岡県青少年科学館 平成10年 9月 6日～10月11日 日南市(宮崎県) 平成10年10月22日～11月29日 防府市青少年科学館 平成11年 3月 7日～ 4月 6日 神戸市立青少年科学館 「数学と遊ぼう ーかたちと数のワンダーランドー」 平成11年度巡回実施にあたり、企画及び 展示物の制作を行った。 平成11年3月、加盟館園に対し開催希望館 を募集した。 ② 科学系博物館ホームページの総合的な 開発・高度化支援事業 ホームページ活用研修会の実施 平成11年1月27日～29日 NTT 麻布セミナーハウス</p>
<p>科学系博物館 における展示 活動に関する 国際比較研究</p>	<p>9年度から2ヶ年計画で実施した。 平成10年度調査 ①調査期間 平成11年1月28日～2月6日 調 査 先 デンバー自然史博物館、サン ディエゴ自然史博物館、ビジ ョップ博物館 ②調査期間 平成11年2月4日～2月13日 調 査 先 カーネギー・サイエンスセン ター、ニューヨークホール・ オブ・サイエンス、全米科学 館協会 [ASTC] ③展示評価のモデル調査の実施 「ふしぎ大陸 南極展」の入館者の属性、 意識、見学行動、見学後の感想、展示属性 等を調査し、展示評価のモデル調査を実施 した。 ・調査場所 福岡県青少年科学館 ・調査期間 平成10年8月21日～23日 ・調査内容 (入館者追跡調査) 各展示に対する見学行動、見学時間 等、入館者の行動を調査する。(203 サンプル) (入館者アンケート調査) 入館者追跡後、アンケート調査依頼 を行い、入館者のプロフィール、来 館前の意識、退館後の感想等、来館 者の属性と展示に関する評価を調査 する。(203サンプル)</p>

<施設見学>

7月1日午前中には、4月24日にオープンした国立科学博物館新館において、常設展の他、企画展「すばる望遠鏡」の見学を行いました。

— 全 科 協 情 報 —

金沢工業大学「工学の曙」文庫の展示利用について

金沢工業大学は「工学の曙」文庫という名の科学技術稀覯書のコレクションを所蔵している。その内容は1540年代から現代までに出版された主要科学技術業績の初版本の蒐集である。たとえばユークリッド、プトレマイオス、コペルニクス、ガリレオ、ケプラー、デカルト、ニュートン、アインシュタインなど主要な業績はほぼ揃っている。同大学は1988年に国立科学博物館でこのコレクションの展示を行って以来、全国の科学博物館、科学館に於ける企画展示の求めに応じて、文庫所蔵の書物を貸し出し、科学技術知識の啓蒙に努めて来た。同大学は今後ともこの活動を続けて行きたい意向である。貸出の詳細については、岡田初美金沢工業大学ライブラリーセンター業務課長(TEL 076-246-2112、FAX 076-248-6189)まで。

なお、「工学の曙」文庫の詳細については金沢工業大学ライブラリーセンターのホームページ(www.kanazawa-it.ac.jp/kitlc/)に掲載してある。

第3回全国博物館ボランティア研究協議会開催

主催・会場：国立科学博物館

期 日：平成11年12月6日～12月7日

問合せ：教育ボランティア活動推進室

TEL 03-5814-9873

全科協ニュース編集委員会

NHK放送博物館	チーフディレクター	河野光子
滋賀県立琵琶湖博物館	展示科長	高橋啓一
ミュージアムパーク茨城県自然史博物館	資料課長	中山静郎
国立科学博物館	普及部 普及課長	佐藤兆昭
国立科学博物館	普及部 普及課専門職	原田紀子

全科協事務局

国立科学博物館普及部普及課 黒川 保 園山千絵
Tel.03-5814-9857・9858 Fax.03-5814-9898

発行日 平成11年9月1日

発 行 全国科学博物館協議会©

☎110-8718 台東区上野公園7-20 国立科学博物館内

印 刷 島崎印刷株式会社

<記念講演>

講演者 秋山仁 東海大学教育開発研究所教授
演 題 「賢治流教育法」